

田和山の森から

第 243 号
令和 7 年 1 月 6 日
里山を育てる会

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします
令和 6 年は、猛暑の影響を受け、田和山の樹木も少なからず影響を受けましたが、皆様方のご尽力により無事に乗り越え新年を迎えることになりました。

今年度の活動も昨年と同様に、「キンランとササユリが健全に育つこと」を目指して作業を行いながら、田和山の森の諸課題に取り組みます。あわせ今年度は、新規会員の加入に向けた取り組みもしていきたいと考えています。

活動に当たっては今年も週一回のペースを守りながら「急がず、焦らず、ゆったり」とした気持ちで、おののの体力に応じ楽しみながら作業を進めたいと思います。

新しい年が、皆様にとって素晴らしい年となることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

里山を育てる会 会長 竹下幹夫



12 月の作業から

受光伐の実施



休憩場所である東屋の上の斜面は、タブやヤブツバキなどの生長に伴い、林

床まで光が届き難い状態になっていました。(写真のように、林床は落ち葉のみの状態です) 11 月から 12 月にまたがり、上層木の伐採を行い

ました。根元径が 60 センチを超える樹木を含め伐採することで、林床はかなり明るくなりました。この場所では、以前は、キンランをまとめて見かけましたが、消滅するか、残っている株も年々小さくなってきています。今回の伐採した樹木は、枝葉も含めこの場所から持ち出し、林床にある落ち葉の掻き取りもおこない、良い環境にしていこうと思っています。

1 月の予定

- ・林床の刈り払い及び落ち葉の掻き取り

訃報

設立当初からの会員で活躍された岡本文雄さんが 12 月 18 日、87 歳でお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。

田和山の樹木 第 56 回 モウソウチク、マダケ

田和山のタケ類はモウソウチクとマダケであとはササの仲間となります。今回はモウソウチクとマダケを紹介します。厳密に分類するとタケは樹木ではありませんが、田和山を構成する主要な多年生の植物ということで樹木に準じて取り上げます。

モウソウチクは江戸時代(1730 年代)に当時の薩摩藩が筍を採る目的で持ち込んだのが最初でその後に、全国に広がったといわれており、中国が原産国です。一方マダケは、日本に古くからあるということで「真竹」とよばれていますが、中国原産で有史以前に持ち込まれたという説もあります。

モウソウチクとマダケの違いは筍の発生する時期で、山陰地方では前者が 3 から 4 月で後者が 6 月です。味はモウソウチクが上だと言われていますが、マダケの少し苦みのある味も格別なものがあります。その苦みからマダケは苦竹とも言われます。

材質も異なり、マダケがタケ類の中で、最も弾力性、加工性があり、竹細工などに多用されています。

形態的に区別するポイントは、節の環が違うことです。(写真左がモウソウチクで右がマダケです。)マダケは二重になっています。



今後の活動予定 1 月 10 日(金)、1 月 18 日(土)、1 月 24 日(金)、1 月 31 日(金)、2 月 7 日(金)、2 月 15 日(土)、2 月 21 日(金)、2 月 28 日(金)となります。時間は 13:30 からです。ただし、土曜日は 9:00 から始めます。